

ナマステ



特定非営利活動法人
自然文化誌研究会 会報誌

150号

2023年5月20日発行号

祝・『会報ナマステ 150号』発行！！

コロナ禍もあり、主催事業を開催できるだけでもありがたいと思う日々の中で、いつの間にか 150 号の節目を迎えていました。記念行事など何も考えていませんでした……。2025 年には自然文化誌研究会の創設 50 周年を迎えますのでその時に記念行事を考えましょう！！

- ・ナマステ第 1 号 1989 年 7 月 1 日発行
- ・ナマステ第 50 号 1999 年 8 月 20 日発行
- ・ナマステ第 100 号 2010 年 6 月 1 日発行

このペースだとナマステ第 200 号は 2036 年頃になるかな……。(事務局 くろさわ)

『こすげ冒険学校』のご案内！！

小菅村の自然と文化を満喫しながら過ごす 6 泊 7 日の長期キャンプです。川遊びでは飛び込んだり、魚がいっぱいいる淵で泳いだり、思う存分に遊び続けよう！！寒くないように焚き火をしながら、お風呂も沸かしておこう。毎晩星を眺めながら眠ったら寝てしまおう！！一緒に山と村の暮らしを探検する 7 日間！何をやるかは自分の気持ちと天気によって決まるかな！

日程：8 月 4 日（金）～8 月 10 日（木）6 泊 7 日

場所：小菅村 清水バンガロー（木下キャンプ場）

→（山梨縁北都留郡小菅村 5,413 番地）

宿泊：テント（一人用で個人就寝）で寝袋

対象：小学校 3 年生～中学校 3 年生 定員 20 名

指導者・スタッフ：村の人々と東京学芸大学の大学生など

参加費：45,000 円

備考：全日程の参加を原則とし、途中からの参加等は不可とします。

申し込み方法：6 月 23 日（金）必着（締め切り厳守になります）に事務局までをお申し込みください。

参加者が定員を超えた場合は抽選になります。

※抽選になった場合について：

①参加の可否については 6/30 日（金）までに郵便 or メールで通知します。

②兄弟・姉妹間での参加の交代等は無しとします。



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

「子どもゆめ基金助成活動」

体験の風を
おこそう

2023年 むらまつりキャンプ報告

今年は村長をやらせていただきました鈴木英雄（自然文化誌研究会理事）

今年も5月3日から5日までの2泊3日で、キャンプを実施しました。この時期のキャンプは親子での参加を認めています。昨年の参加者は10名（うち大人3名）でしたが、今回は3組の親子（大人4人）を含めた19名の方にご参加いただきました。子供は小二から中二まで、とりわけ小二が6名もいて、まあ、かわいい。みんな仲良しで、まったくいさかいが無い（いつもは多少あるんですけどね）。スタッフで来てくれた方は高校1年生から年金受給者まで、総勢38名。コロナで思うような活動ができなかった頃に比べると、実に充実したキャンプになりました。



天気が良くて昼は暑いくらいでしたから、なんの躊躇もなく川で遊びました。川の水はご存じの通りとても冷たいので、長く入っているわけにはいきませんが、水生昆虫を探したり、魚を捕まえたりと好奇心のかたまりのような子供たちにとっては、天国でした。水遊びの次は火遊びでしょう。焚火は自由にできますから、それぞれが悩みながら火をつけていきます。火をつけるのは学生スタッフでも難しい。こういう時に大人たちは手助けしません。できないことを経験するのが、このキャンプの目的でもあります。散歩に行く集団あり、山に山菜をとりに行く集団あり、キャンプ場で木工作や金属加工に興じる人々あり、竹で笛を作ってアンサンブルに挑戦するものありと、それぞれが自分の興味のあることにチャレンジし、決して全員で同じことをしないというのもこのキャンプの特徴です。それぞれがそれぞれに失敗と成功を積み重ねていきます。



白糸の滝や雄滝は林道が崩れていて見に行くことができませんでした。そのかわり、村

の下流にある雨乞いの滝を見に行きました。高さは10mほどの小さな滝でしたが、厳しい崖の中にあり、ダイナミックな自然を感じることができます。

またキャンプで食べるものはなんでもおいしい。キャンプ場でピザ窯を作って、とってきた山菜を載せた山菜ピザを焼きました。



やまめをいただきました。
鹿肉の唐揚げを食べました。
なんとキャンプ場で手作りのアイスクリームをほおばりました。
でもやっぱり2日目に食べたカレーライスが一番だな。

夜は星空観察をしました。残念ながらほぼ満月でしたから、月以外の星はあまり見えませんでした。

最後に小菅の湯に入ってさっぱりして終了。こんな楽しいキャンプはないなと感じた3日間でした。早くも次のキャンプが待ち遠しいです。



<スタッフの感想>

名城莉南子さん（東京学芸大学 3 回生）

色々な人と関わって、とてもいい経験になったし、参加者といっばい遊ぶことができ楽しかったです。

山菜採りやヤマメをさばいて食べること、火おこしは初めてやったんですが、色々な発見があって面白く、またやりたいと思いました。あと、キャンプ場外を出て色々なことをしたのも探検みたいでワクワクしました。

スタッフの方全員が温かく、よく周りを見ている優しい方々でとても心が癒されました。元参加者の方がスタッフとして来てて、ここがとてもいい思い出になってるから来るんだろうなと思って、いい場所だなと思いました。色々刺激をうけて、また行きたいです。参加させていただきありがとうございました。

【気がついたこと・次回に向けての提案】

石を火の中にいれたらどうなるとか、冷えピタの実験をしている子もいたりで参加者の子供たちの知的な好奇心が旺盛だなと思いました。

あとは、キャンプ場を出てみて、もっと小菅村を探検したいと思いました。

森岡小晴さん（東京学芸大学 4 回生）

やりたいと言ったことに大人が真剣に向き合ってくれる、だから子どもは責任を持って全力で遊んでいて、大人のことを信頼している。できるか分からないからやってみる、プログラムが用意されていたり、成功が保証されていることが多い学校で見ると子供の姿との違いを改めて感じたキャンプでした…！今回は、教採や実習など頭をよぎるものが多かった中で、もう少し積極的に子どもと関わられた良かったなと思うところもあるのですが、佐伯さんと横笛の研究をしていた時に興味を持って子どもが来てくれたり、いつもよりも少しだけ待ちの姿勢で構えていた分、子どもの方から見て見て！聞いて聞いて！と自慢げに来てくれたのが嬉しかったりもした3日間でした！

相変わらず、ご飯がめちゃめちゃ美味しくて、大切にしていることが素敵な人たちが沢山いる環境で、全力で遊ぶ子どもと想像力と創造力を働かせて自然体験ができて大満足でした！

この子供の生き生きとした姿を忘れずに実習と教採頑張ります！

次回はもっと体力全開で臨みたいと思います！参加させて頂きありがとうございました！



3度目のアイラ島へ（その2）佐伯 順弘（岐阜県）

Travel planning 2017

DAY2 16th AUG AUH→MAN→GLA
 Stay HolydayInnExpress GLA
 DAY3 17th AUG GLA→ILY
 DAY4 18th AUG ILY
 DAY5 19th AUG ILY

DAY2（16AUG2017）移動／

北京→アブダビ→マンチェスター→グラスゴー
 まだ、2日目アブダビでの乗換中である。
 1021 着席。1045 定刻出発。すばらしい。



1237 昼食。基本的に、どの航空会社のどの機内食についても特に文句はない。それどころか、毎回とても楽しんでいる。しかしながら、わずかに違和感を感じるのが、プリンやゼリーが入っている容器に水が入っているところだ。もちろん、こぼれないし、それほど水ががぶがぶ飲むわけではないので、全く問題ないのだが。

毎回、どうでもいいことを考えているとあっという間に時間が過ぎる。1815 機体はマンチェスターに到着した。ロンドン時刻に変更。4 時間戻して、サマータイムで1 時間進める。

****アブダビ時間 1815→ロンドン時間 1515
 1600 イミグレーション通過。UK に入ったが、まだフライトは終わりではない。マンチェスターからグラスゴーへ飛ぶのだ。いったん入国してから、乗継かと思いきや、乗継エリアにもイミグレがあった。スマホと iPod を充電した後、探索を始めたが、迷ったのかと係員が声をかけてくれた。チケットをチェックしてもらって、COSTA のあるエリアに向かった。

1725 再び COSTA

カプチーノ、パニーニ、6.6GBP。カプチーノはミディアムなのにでかい。でかすぎ。腹がタポタポになってしまった。じゃ、飲むなよって感じなのだが、そういうの粗末にできないんだよね。昭和中後期型の量産機だから。全く関係ないが、このエリアはなぜか、子どもが多い。しかも、どういう訳か、みんな泣いている。乳幼児は泣くのが仕事みたいなものだから、別にいいが。自分は小学生頃までよく泣く奴だった。そういうこともあり、子どもの泣き声には寛容だが、それにしても多い。大量誘拐？などともんでもないことを想定したが、可能性としては極めて低いのは分かり切っている。

1954 やっと GATE142 に来いという表示が出たので、さっそく向かう。距離はあるが時間もあるので特に問題はない。

2000 着席 11A。2100 グラスゴー着。国際線ではないし、出るだけなので素早く、空港建物から脱出した。そして、辺りを探索すると目の前に、本日の宿泊場所があった。徒歩 15 秒か。

2123 HolydayInnExpress 到着。チェックインして、部屋に入ったのが 2130。Room214。



十分な広さがある部屋だ。なんかかんやと食べたので、夕食は不要だった。カプチーノのゲップがまだ出る。若干高いが、空港の近くにあり、ちょっといい感じのホテルなので、乗継の時はここを利用するでしょう。街を探索する時は一度泊まったことのある EH（ユーロホステル）が安いし街を歩くには最適だ。

いいホテルはホテル内を楽しむことも大切に行っているのだが、やはり疲れているし、明日も早いで素早く寝ようと努力する。しかし、案外やる事が多くに真夜中になってしまった。

ベッドは予想通り、とても快適だった。

明日（17AUG2017）も移動。いよいよアイラ

島に到着する。アイラ島への道のりは長い。

DAY3 (17AUG2017) 移動/GLA→ILY

0600 起床。スコットランドらしい曇り空。それはそれで趣深い。アイラ島までは後1ピッチである。
(解説：ピッチは登山用語として使用。)

0620 朝食。文句なく普通に美味しい朝食。いったい誰だ。イギリスの飯がまずいなどと・・・。(以下省略。この下りは既に何度も使っているので、読者も飽きていることだろう。)



0640 部屋に戻る。0705 チェックアウト。そして、空港まではゆっくり歩いて5分である。ホテルを出たら目の前に空港がある。

0714 航空会社 Flybe のチェックイン完了。後は待つだけ。0730 セキュリティチェックに向かう。0740 通過。あっさりしたものである。国内線なので、そういうものだろう。電光掲示板が見えるベンチに座り、スクリーンをぼんやり眺める。すると、それほどぼんやりする時間もなく、「GOTO GATE01」の表示が現れる。慌てて行っても、確実にそちらで待つことになるのだが、一歩でもアイラ島の近くに行きたくて、急いでGATE01に向かう。5分後、GATE01に到着。簡素な待合室は知っている通りの穏やかさで、のんびりを絵にかいたような雰囲気の中、30分以上は待つつもりでベンチに座る。

(Flybe はもともと悪化の一途を辿る業績に加え、Covid-19の影響もあり、2020年3月、ついに運行停止。2022年復活との情報も流れているが、真相は定かではない。)

0820 想定外に早い。搭乗。0840 何と素早いイクオフ。そして、0910 タッチダウン。

0917 空港の外に出る。アイラ島に到着。

0950 偶然だが、素晴らしいタイミングで、空港からボウモア (Bowmore) の街へ向かうバスに乗

ることができた。30待ちなど、このゆったりとした時間の流れの中では、全く問題ではない。アイラの地に降り立てば、瞬時に時間感覚はアイラに合う。やはりここは、自分にとってのアナザースカイなのだ。

1000 ボウモアの街に到着。2.0GBP (350JP¥)。1020 バス停の近くにあるコープで水を買ひ、近くの観光案内所ですばらく検討の後、キルホーマン蒸留所 (Kilchoman) への足を手配する。基本、安めの公共交通機関と徒歩で旅をしているのだが、今回初めて訪れるキルホーマン蒸留所への道のりは、徒歩でたどり着くには遠いと判断し、通常の行動基準を外してタクシーを手配してしまった。

1040 ボウモアの観光案内所前からブルイックラディ蒸留所 (Bruichladdich) に向かうタクシーに同乗させてもらうことになった。そのタクシーには先客がいて、露骨に不機嫌そうな2人組だった。そりゃ、日本人以外の人々が誰もがフレンドリーではないので、時にはそういった方に出会うこともあるだろうが、アジア人の変な奴が乗ってきた的な不機嫌さを感じて大変居心地が悪かった。

1100 キルホーマン蒸留所着。この蒸留所はブルイックラディ蒸留所への経路の途中から北に離れた場所にあり、バスが通っていない。一般的にはタクシーで行くことになるが、徒歩で行ける距離である。(ちなみに飲んだ後40km歩いて帰れる歩行力は必須。) ビジターエリアはシンプルだが、コアレンジ3種類のテイスティングができ、感じのいい場所だった。味わいはどれもシンプルかつ強めだった。そういうタイミングだったのかもしれないが、観光客は少なかった。やはりバスで来られないのが原因かもしれない。

ボウモアを出発し、最初にブルイックラディで2人を降ろし、2人組が見学している間に1人キルホーマンへ送ってもらい、見学後ブルイックラディに戻るという行程だったのだが、足元を見られたか30GBP (約4500円) だった。台湾で身に着いたタクシーはそれほど高くはないという感性がマイナスに働いたか、無理して都合をつけてもらった負い目か、料金を確認しなかった自分が悪いのか。そもそも高かったら、利用しなかったかといえば、その選択はなく、利用せざるを得なかったのだ。

予想外の出費にダメージを受け、失意の中、ブルイックラディ蒸留所前のバス停からボウモアコープ前のバス停まで、タクシーと比較すると哀しくなるくらいリーズナブルな料金で戻る。ボウモアコープから既に定宿となったボウモアホテルまではほんの数分。コープから海と反対側に歩き、最初の交

差点で左に曲がったらボウモアホテルまで 20 メートルくらいである。

1250 精神的な疲労が大きく、ベッドに倒れるとそのまま眠ってしまった。

気が付くと既に外は暗くなっており、何時だか確認しないまま、とりあえずシャワーだけ浴びて、夕食を食べるのも面倒になって、そのまま本格的な就寝に入った。キルホーマン蒸留所で飲んだスコッチ 3 杯が意外と効いていたのかもしれない。テイティングといっても味を見るだけというちやちなものではなく、きちんとワンショットくるので、一気に 3 杯も飲めばそこそこ効くのだろう。そんなに弱くはないはずだが、通常の行動基準を破って、無駄な出費をした自分の弱さを悔いていたのかもしれない。大学生のころから続いている貧乏旅行の習性はそう簡単には抜けないのである。

DAY4 (15AUG201) ILY

0600 さわやかな目覚め。アラームなしでジャストタイムに起床。そもそも 0600 起床などとは決めていなかったが。シャワーを浴びて、朝食に向かう。外は曇り空、庭の草木が激しく揺れている。風がかなり強いようだ。しかし、雨が降りそうな気配はない。スコットランドはいつもこんな感じである。0745 朝食。定番のクックドブレックファストをオーダー。いわゆるスコティッシュブレックファスト。クックドとオーダーすると温かいものが供される。そうでないと、簡素な感じのものがすぐさま供されることになる。確かに量は多いが、スコットランドでもイングランドでも朝食で 1 日の栄養をすべて摂取するつもりで食事に向かうのである。(個人的見解)



旨い。イングリッシュブレックファストとは少し違うスコティッシュブレックファスト。ブレッドもバターもオレンジジュースも本物の優しい味だ。満足して、部屋に戻る。

0910 今日のミッション遂行のため、ホテル出発。まずは観光案内所兼ショップでボウモアの地図を買う。昨日と同じ轍を踏まない。正しく冒険探検部らしい旅をするのだ。今日はブナハーブン蒸留所 (Bunnahabhain) へ向かうための重要なアイテムである。そうなのだ、このドラクエ的な展開こそ、自分の旅の真骨頂だった。

1000 ボウモアコープ前のバス停からブナハーブン方面のバスに乗る。ちなみにブナハーブンまでのバスはない。運転手に話しかけ、ブナハーブンの近くまで乗せてくれないかとお願いする。やはり、スコットランドの人はいい人だ。すぐさま「いいよ。近くまで乗ってきな。」みたいな感じで、降りる場所までのチケットを売ってくれた。のんびりした気分、バスに揺られる。車窓を流れる景色を眺めていると不意にバスが停車。バス停でも何でもない。「ここから、あっちの方へ行くとたどり着くよ。」みたいなことを言われる。感謝の言葉を述べ、バスを降りる。

地図を確認すると、約 5km。どうということのない距離だ。雲量は多いものの、晴れ間も見え、やや暖かくなってきた。(夏だから暑いのが普通だが、朝夕は寒いし、昼でも冷たい風や雨が降ることもある。) 植生を観察したり、大きな池の場所を地図と照らし合わせたりしながら、ブナハーブンへの道をのんびり進む。

途中、新しい蒸留所の建設現場を発見。何と来年開業だと? おいおい、今回でアイラ島の蒸留所をコンプリートできるはずなのだが、コンプリート期間が 1 年未満だと? いやはやびっくりである。ま、こういう最新情報と現地で接することができたのもうれしいことなので、特に文句はない。

アードナホー蒸留所 (Ardnahoe)。いつかまたアイラ島に来たときに訪れるとしよう。その時までには経営を軌道に乗せていてくれたまえ。

1127 のんびり歩いた割には、1 時間で 5km を踏破。ブナハーブン蒸留所着。1300 発の工場見学ツアーを予約。それまで、ショップや蒸留所のそばの港を散策する。疲れたのでキャンプ地にあるようなベンチで休んでいるとオランダ人の 3 人の若者に話しかけられた。ウィスキーを愛する者はそれだけで同士なのである。日本から来たと伝えると、「山崎を知っているか。」ときた。「もちろん、好きなウィスキーの一つだ。」と答えると、「あればうまいよ

ね。」と来る。全く関係者じゃないのにうれしくなる。オランダは日本だけで通じる言葉で、ネーデルランドもしくはホラントが通じる国名だ。ダッチはあまりいい意味ではないというくらいの教養があってよかった。本当に気分のいい3人組で、車で来ているという。車はフェリーに乗せてきたとのこと。なるほど、いつかドライバー役の酒を飲まない友人をスカウトできれば、レンタカーでグレートブリテン島からフェリーで訪れるのも楽しいかもしれない。途中までバスで来て、その先は歩いてきたんだと伝えると、「狂ってんのか？」と笑われた。1300 ツアー開始。3杯のウィスキーをテイasting。(ショットグラス1杯を1Dramという。)それぞれの個性がはっきりしていて楽しかった。ツアーが終わり、さて歩いて帰ろうかと思っていると、先ほどの3人が途中まで乗っていかないかといってくれる。やはりウィスキーの探究者に悪い奴はいないのだ。「ヒッチハイクの作法その1」に従い、全力の英語力で会話する。彼らは英語が得意だったので助かった。1435分岐点があるブリッジエンドという場所で降りてもらった。「良い旅を」「君も」と声を掛け合い別れる。いい気分だ。これが旅だよな。通常ヒ

ッチハイクは乗せないのが鉄則だが、ウィスキー好きで話があったから載せてくれたのだろう。ウィスキー好きの絆は意外にも国境をあっさりと越えていた。そこから徒歩でボウモアへ向かう。1536 あっさり1時間ほどでボウモア中心部に到着。疲れていたので、少し眠る。1924目が覚めたので、ホテルのバーに向かう。朝食ガッツリ後は、水1Lを飲んだだけなので、空腹だった。がしかし、最初はビールである。ボウモアホテル特注?のスコティッシュエール3.6GBP×2。味わい深い優しい味。2008 レストランに場所を移して、フィッシュ&チップス。かなり大きな白身魚のフライと山盛りポテト。昼食を抜いた分を軽くカバーして余りあるといったところ。2034部屋に戻り、シャワーを浴び、旅日記と出費記録をつけ、早々に寝る。それにしてもよく歩いた。歩いて飲んで、歩いて飲んだ。なんと健康的で充実した人生であることか。まだ、旅半ばである。(つづく)

キルホーマン蒸留所



ブナハーブン蒸留所



アードナホー蒸留所建設地



ブナハーブン蒸留所と著者



宮本茶園

雨の日以外は畑で野良仕事、賃金労働者時代にあこがれていた夢がかなって一年が過ぎました。猿にしか出会わない山奥で黙々と野良仕事をしていると、古い友人が遊びに来てくれる事がとても励みになります。3月下旬、吉田島農林高校（現吉田島高校）で担任をしていた教え子たちが佐野川を訪ねてくれ、4月にかながわ農業アカデミーへ入学し新規就農を目指す元生徒から進路相談を受けました。

農業を仕事にする夢を持つ若者に赤字経営農家の私が助言する資格は無いのですが、彼らに「食品流通」という科目を教えていた事を思い出し、久し振りに農業の楽しさを伝える教材準備と授業案を考えました。主な教材は佐野川茶製品販売のめぐりんずつくい・佐野川茶アイス製造のメグジェラート・宮本茶園、各所を案内しながら藤野茶業部佐野川茶の相模原ブランド構築や雑穀街道の世界農業遺産登録申請の取り組みを熱く語ってしまいました。彼らと別れた夜「20年ぶりの先生の課外授業、社会に出てからの目線で受けることができ、今日は本当に勉強になりました」とお礼のメールを受け取りました。神奈川県教育委員会に失職させられ学校とは無縁になった私ですが、今なお授業を真剣に受けてくれる教え子がいて案外幸せな教員人生を送っていたようです。



・春の茶仕事

毎年2月半ばに春肥作業が始まるので、茶園畝間へ有機資材を敷き詰める作業はその前に終わらせます。今春は地域で里山の環境保全活動に取り組んでいる「さっそくこう会」から落葉や耕作放棄された果樹園を整備して出た剪定枝のチップをいただき、4月上旬まで茶園に運びました。今年は統一地方選で相模原市長選挙があり、選挙運動期間中の出来事です。本村市長の奥様が上岩の作業現場に立ち寄り、会員との小集会になりました。「ここは美しい農村景観ですね」と話されたので、私は「ここに生活している農家が協力し合って里山を手入れし、毎日畑で野良仕事しているから美しい農村景観が守られているのです。SDGsに力を入れる本村市長には中山間地域の農家が安心して生活できる政治を期待しています」と思いを伝えまし

宮本透

た。

春の茶仕事は施肥・整枝と順調に進み、4月28日各茶園を巡って新芽の開葉数と長さを調べました。4月の佐野川は9日・10日遅霜がありましたが暖かな日が続き、新芽の生長が予想以上に進んでいます。例年連休明けから始まる茶葉摘採作業ですが5月1日開始を決めました。茶葉搬送用車両・人員手配、愛川工場受け入れ日程調整を事務局、藤野茶業部は作業人員確保と役割分担しましたが、2日間では準備不足は否めません。搬送車両・人員が手配できなかった日は軽トラ荷台にスノコ板を並べ茶葉の入った摘採袋を積み、自分で運転して愛川工場へ運びました。部員の高齢化と人手不足は深刻で、昨年に比べると一日の作業で摘採した茶葉重量は明らかに少なくなっています。佐野川茶の相模原ブランド構築には乗り越えなければいけない課題が山積している現実を受け止めました。ともあれ新茶製造に全力で取り組んでいますので、藤野茶業部への応援よろしくお願いいたします。



・野草の天ぷらとお茶摘みの会

コロナ禍ですと中断していたINCH 伝統人気行事「野草の天ぷらとお茶摘みの会」、事務局が大学と交渉し若いスタッフが準備をして4月23日に開催する事ができました。私の担った準備といえば当日スタッフ集合時間に遅刻しないよう藤野駅発上り電車に乗り、国分寺駅から環境教育研究センターまで歩いただけです。久し振りに訪れた母校にはWBC日本代表を優勝に導いた栗山監督のお祝い幕が掲げられ、偉大な後輩の活躍を喜んで記念写真を撮ってしまうお気楽さです。学生時代栗山君が活躍していた野球場近くにあったプール門長屋部室、授業をサボってたむろした特殊教育研究部員は例外なく留年・退学した黒歴史を背負いました。部室で過ごした至福の時間、佐々木信也さん等プロ野球関係者をよく見かけた事、学大におき忘れた青春のかけらを思い出しました。

定員50名限定事前申し込みのお茶摘みはコロナ禍以前の賑わいはありませんでしたが、ずっと待ち望んでいた方も多く皆さん熱心で1時間に摘んだ新芽は約3kgありま

した。スタッフの贄田君やちえのわ部員がセイロやホイロを手際よく設置してくれ、私は職業科・技術科 15 人で 60kg の茶葉を摘んだ農場実習の辛い思い出話をしながら参加者に手もみ茶のコツを伝えました。額に汗をかきながらセイロで蒸した茶葉をホイロの上で揉む事 3 時間、700g の新茶が出来上がりました。今回は「飲食は無し」の開催で美味しいお茶の淹れ方は足柄茶リーフレットを配布し、自宅で試みるようお願いしました。

1985 年やほ耕作団で行った味噌仕込みから始まった春の INCH 恒例行事、小川君や岩谷さんが事務局員だった 90 年代に「野草の天ぷらとお茶摘みの会」となって今に至っています。後片付けをしている最中小川君と木俣師の話をしているとちえのわ 2 年生のスタッフから「木俣先生って誰ですか?」、二人で目を丸くして顔を見合わせ驚きました。定年間近の小川君、木俣師を知らない後輩、INCH 50 年の歴史を感じた瞬間でした!



・雑穀街道普及会の活動

1~3 月に開催された国際雑穀年記念オンラインイベント「つつつ雑穀パワーフェス」は全国から参加者が集い、新しい出会いがたくさんありました。4 月 20 日熊本県に住む音楽担当スタッフでオリジナル曲「草の結び」(雑穀の歌)を演奏した UpepoUpopo (うべぼうぼま) のお二人とトランジション・ジャパンの梶間さんが「雑穀街道ツアー」を企画、佐野川を訪ねてくださいました。国際雑穀年記念発泡酒ソビボ・ピーボ醸造打合せを兼ねて和田の Jazz Brewing Fujino を視察、山口さんから工房設備と醸造工程の説明を伺いました。ホップ委託栽培で長いお付き合いがある山口さんですが、工房に入ったのは初めてでとても勉強になりました。上岩に移動してゴエモン佐野川チームの醤油仕込みを紹介、宮本茶園を案内しました。楽しいツアーの様子はびりかカフェの動画「【雑穀街道の旅】藤野・小菅村」が YouTube にアップロードされていますので、ご視聴お願いいたします。

ソビボ・ピーボは学芸大学辟雍会通信 No.14 に「創基 150 周年を記念して復刻されます。キビの栽培や雑穀酒の醸造には本会会員が関わっています」と紹介されました。第 12 回自給農耕ゼミ(佐野川)は 5 月 21 日キビ播種・ホップ栽培棚作り等の実習を行います。今年は上岩雑穀畑だけでなく千木良のゴエモン活動や Jazz Brewing Fujino の発泡酒仕込み見学等、年間を通して雑穀街道各地域の取り組みも紹介できるよう準備しています。雑穀やホップを自分たちで栽培・収穫し、美味しい料理やクラフト発泡酒を楽しみましょう



雑穀街道普及会の活動に興味ある方、宮本携帯 (090-2205-8476) へご連絡ください。



植物と人々の博物館
Plant and People Museum
Vol.31



国際雑穀年
2023



「雑穀街道」を国際連合食糧農業機関（FAO）世界農業遺産に登録するための活動も拡大中です。2023年の国際雑穀年（International Year of Millets）に合わせて多くの方々のご協力を頂いています。2/8（水）の相模原市長との面会に続き、4/24（月）に上野原市長との面会を行い、2024年2月の農林水産省へ登録申請に向けた協力をお願いしました。雑穀街道の普及に向けた普及用説明冊子も第4刷（http://www.ppmusee.org/_src/11238/ms23e4.pdf）に改定しています。先人が生きたまま毎年種子を播いて、郷土食を調理して継承してきた雑穀の種子を切らさないことに関心を向けていただき、ご賛同をよろしくお願いします。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。基層文化を消滅させないように切にご助力をお願いします。雑穀を継承する仕組み作りの最後のチャンスです。

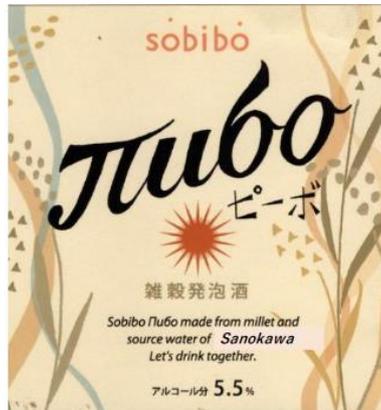
雑穀街道普及会：<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

＜ご案内1＞（引き続き、第一回出荷に向けた賛同者を募集中です！）

雑穀街道を国際連合食糧農業機関（FAO）世界農業遺産に登録する活動の普及促進と国際雑穀年を記念し、「雑穀発泡酒 ソビボ・ピーボ（素美発泡酒）」の復刻を計画しています。第一弾として限定50口での醸造を目指していますので、ぜひ、ご賛同いただき、仮予約いただければと思います。価格は1口（330ml瓶6本入り）で5,500円（送料込）、宜しければ任意の寄付を加えて頂ければ幸いです。第一回の出荷を機に新しい雑穀街道の名産になれば、地産の新しい生業創出にも繋がります。ぜひ、ご参加ください。

1バッチ（330ml瓶300本）の製造価格が約20万円、これらにラベルデザイン・印刷代、送料などの経費に使用します。仮予約が限定50口になりましたら、改めてご連絡し代金などをお振込みいただきます。※現在36口の仮予約があります。

（ロゴ案）



雑穀街道を世界農業遺産に登録しよう

麦芽使用率 x x % 以上
Z z 産麦芽70%
その他の材料：相模原市緑区産
日本の里100選佐野川の水100%
キビ30%、ホップ

内容量330ml



国際雑穀年記念2023

雑穀街道普及会



企画へのご質問や仮予約申込先：雑穀街道普及会、事務幹事 木俣（kibi20kijin@yahoo.co.jp）

企画団体：植物と人々の博物館／日本村塾自給農耕ゼミ（佐野川）、雑穀街道普及会ほか

＜今後の関連イベント情報＞

【ローカリゼーションデー日本2023】トランジション・ジャパンと連携して雑穀をテーマとした分科会の開催を検討しています。6月11日（日）にオンラインで開催しますので、ご興味がありましたらぜひご参加ください。分科会テーマ：雑穀=食のローカリゼーション（仮、6/11午後開催予定）

ローカリゼーションデー日本2023：https://peraichi.com/landing_pages/view/localizationdayjapan2023

【自給農耕ゼミ（佐野川）】山間地畑作農耕の実体験（主に雑穀栽培の基礎技能と佐野川茶の管理作業）を通じて、雑穀の民族植物学、雑穀とその料理の起源と伝播、インドの日本の雑穀料理と発泡酒醸造を学びませんか。2023年は5月21日（日）に第12回自給農耕ゼミ（佐野川）を開催し、その後毎月1回の集まりを予定しています。上野原市西原でもNPOさいはらの雑穀栽培会があります（協働実習）。ぜひご参加ください。

環境学習市民連合大学：<http://www.milletimplic.net/university/civicues.html>

お山の雑穀応援団：<https://yamahatafarm.com/zakkoku/>

「野草の天ぷらとお茶つみの会」報告

2019年4月の開催を最後に、3年間お休みしてきたイベントです。今回はコロナ禍の影響が残り、

- ・飲食禁止（天ぷら、お弁当、試飲含む）
 - ・事前申し込みの定員制
- という条件付きの開催となりました。



久しぶりの学芸大学の農園です。9:30開始。



樹木医の岩谷美苗さんによる野草の解説をしながら散策。



まずは全員でお茶摘みをします。



お茶の講師は宮本透さん



製茶開始、お茶を蒸してから揉みます。



お茶を揉んで13:00過ぎに完成しました。

コロナで3年中断していたタイ環境学習キャンプを今年再開します。詳細はまだ確定していませんが、今回はタイとベトナムを訪問する予定です。

参加希望のある方は6月10日までに、中込貴芳（自然文化誌研究会副代表理事）に直接ご連絡をください。

日時：8月14日（月）～ 8月23日（木）
（タイ8/14～8/19、ベトナム8/20～23）

内容：

- ・パンダキャンプ訪問
- ・ファイ・カ・ケン野生動物保護区での動植物の観察、環境学習の実情視察、アウトドア体験。

・カレン族、ラオ族など少数民族の村の訪問、交流、工芸体験等

・バンライの教員、生徒とのワークショップ

・ベトナム日本語学校訪問

費用：20万円程度

連絡先：中込貴芳 Tel:090-8856-8788

Email: nakagomikiyosi@hi-hone.jp

※久しぶりの訪問なので予定は大きく変わる可能性があります。費用についてもあくまでも目安です。お気軽にお問い合わせください。タイ環境学習キャンプの活動歴については、本会のホームページにも詳しく掲載しています！

INCHまつり（ライブ）開催のお知らせ

秋の一大イベント「INCH祭り（ライブ）」を開催予定で進めています！ライブをBGMに、のんびりとお酒、お茶でも飲みながら過ごしませんか！！音楽を愛する方は楽器持参で、腕に自信のある方もない方も、歌わない方も、お酒を飲まない方も、久しぶりの小菅村の方も、ぜひぜひお越しください♪音楽しない方はのんびりしていても、もちろんOKですよ～♪

■日程 9月30日（土）16:00開演～10月1日（日）日帰りもOK

■対象：どなたでもOK（子どもだけの参加はできません）

※次号のナマステ 151号で詳しく案内します！



○ 自然文化誌研究会 一緒に活動しませんか？

略称 INCH（インチ）。冒険・伝承・創造をキーワードに『国際的な視野で人間をとりまく自然と文化を野外において探求する野外環境教育のパイオニア』として、40年以上にわたって活動を続けています。2004年からNPO法人として再出発し、活動の中心を山梨県小菅村に移し、子どもを対象とした『冒険学校』や市民を対象とした『のびと講座』『ELF 環境学習中堅指導者養成講座（のびと研修会）』などの山村の自然や文化を学ぶ活動を通じて、持続可能な社会を形成していく上で必須である環境学習の実践と農山村の振興を実現させるため、エコミュージアムづくりを行っています。本会の運営は会員の皆様のご協力と、会費で成り立っています。ぜひとも会員の輪を広げていき、納入をお願い致します。本会の趣旨に賛同いただける方なら、どなたでも会員になれます。会費は年額（1～12月）です。また、皆様からのご寄付も募っております。

正会員：10,000円 一般会員：5,000円 学生会員：3,000円

賛助会員（個人・団体）：10,000円 家族会員：6,000円

準特別維持会員：50,000円 特別維持会員：100,000円

植物と人々の博物館友の会会員：3,000円

雑穀街道特別会員：1口1,000円から

・成合基金（冒険探検基金）：「成合基金」とご記載してください。

・寄付：「寄付」とご記載してください。

①郵便振替口座：00100-2-665768

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会

②ゆうちょ銀行：店名 00八 普通口座

口座番号 9479450

口座名：特定非営利活動法人自然文化誌研究会



ナマステ 150号

特定非営利活動法人 自然文化誌研究会 会報誌

<発行日> 2023年5月20日

<編集> 自然文化誌研究会 事務局

<発行> 特定非営利活動法人

自然文化誌研究会

The Institute of Natural and Cultural History

<事務局> 〒409-0211 山梨県北都留郡小菅村 3337-2

TEL: 0428-87-0165・090-3334-5328（事務局黒澤）

E-mail: npo-inch@wine.plala.or.jp

H P: <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>